

作業指導の方法では、講師の導入を継続的に、あるいは一時的に多くの作業にわたって試みられております。又展開としましては、患者の自主的活動の他に社会学級講座、日本筋ジストロフィー協会の福祉作業などと提携した形で行なわれておるものも多くあります。

〈作業を直接担当しておる職員の意見〉

①患者の重症化傾向に対する介助面、②患者ニーズの多様化に即応した指導（作業）内容、③場所確保の工夫、などが主な課題として述べられておりました。

〔考 察〕

この度の集計は単純集計にとどまってしまったが、その中でも 症化傾向を前提とした意欲・疲労・準備・移動問題の対策が必要と思われます。②作業内容は地域に関係なく全国的に共通した内容が実施されており、今後情報交換をすることにより実践面の向上が得られると思われます。③指導者（講師）の導入も種々あり情報交換が必要と思います。④社会的評価・社会参加は今後の検討内容であると思います。以上の点が整理できます。（なお詳細については、発表当日配布した資料を参考にして載せたいと思います。）

18、成人筋ジストロフィー患者の 心理特性に関する研究

国立療養所箱根病院

稲 永 光 幸

PMDの心理面での問題点は、従来いろいろ指摘されており、入院生活においても、彼等の心理特性を踏まえた上での配慮が必要となっている。この必要性から、入院中の成人PMDに心理検査を行なった。PMDに加え、各種筋萎縮症の患者に対しても検査を行なったが、共通する心理特性を示した Kugelberg-Welander氏症の結果も合わせて報告する。実施した検査は、ロールシャッハ検と文章完成法検査の2種類で、知的水準をチェックする意味もあってWAIS 成人甲知能検査も加えた。

知能検査の結果では全IQ平均で、PMD 78.8、K-W77・7 とほぼ同一であるが、PMDにバラツキが大きい。下位検査間での差はみられなかった。

ロールシャッハ検査の結果（PMD 5名、18才～29才、いずれも男。K-W 5名27才～35才、男4、女1）：特徴的な点を数値によって示すと次ページのようになる（全体の平均）。

反 応 数	(R)	12.4	↓
平 凡 反 応	(P)	3.3	↓
形 態 水 準	(R + %)	61.2	↓
全 体 反 応	(W %)	67.2	↑
形 態 反 応	(F %)	65.8	↑
動 物 反 応	(A %)	55.6	↑
内 容 範 囲	(C R)	4.4	↓
人 間 運 動 反 応	(M)	1.78	↓
動 物 運 動 反 応	(F M)	1.33	↓
色 積 反 応	(Σ C)	0.94	↓

矢印は正常群との比較を示したもので、↓が正常群より低い、↑が高いことを示す。

全体的特徴として、外界への適応の悪さが目立つ。精神活動が不活発であり、活発な者でも、極めて主観的 ひとりよがりの世界に閉じ込まっている。心理的閉塞状況と表現できるような心理状態がロールシャッハ検査からうかがわれる。

文章完成法検査の結果（PMD 4 名、K-W 5 名）：自己の不確実感が顕著にみられ、将来への期待・夢を卒直に表現している。対家族に対する記述は、依存と独立、愛着と憎悪といった相反する関係の中で大きく揺れ動いていることを示しており、若年層程その傾向が強い。対社会との関係は、あきらめや逃避、無関心といったものが基調となっているが、一方で関係を持ちたい社会に出たいといった気持ちも表現しており、ここでも揺れ動いている傾向がみられる。しかし全体的にみると期待や夢は小さく、対社会的な広がりも狭い。

以上のように、身体喪失の過程の中で心理的閉塞状態が生まれ、あきらめ、逃避、無関心といった防衛反応をしながらも、回復への期待の中で揺れ動いているという心理状態が明らかとなった。

↓
検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります
↓

PMD の心理面での問題点は、従来いろいろ指摘されており、入院生活においても、彼等の心理特性を踏まえた上での配慮が必要となっている。この必要性から、入院中の成人 PMD に心理検査を行なった。PMD に加え、各種筋萎縮症の患者に対しても検査を行なったが、共通する心理特性を示した Kugelberg-Welander 氏症の結果も合わせて報告する。実施した検査は、ロールシャッハ検と文章完成法検査の 2 種類で、知的水準をチェックする意味もあって WAIS 成人甲知能検査も加えた。